パンデミックに対してレジリエントな社会・技術基盤の構築
2021 年度採択研究者

2021 年度
年次報告書

佐々木 周作

東北学院大学 経済学部
准教授

不確実な感染症政策に対する協力基盤の構築

§1. 研究成果の概要

感染症対策となる科学技術には不確実性が伴うため、自発的協力者が少ない・政策ターゲットの協力が得られない等の課題が生じる。本研究では、自発参加に委ねる「オプトイン方式」での協力者を量的把握して、行動経済学の情報提供ナッジが協力者を増やす効果を検証する。さらに、参加を初期設定にする「オプトアウト方式」について人々の自由意志と厚生に配慮できる導入方法を探究する。

2021 年度は、新型コロナウイルス・ワクチンの文脈で三つの研究を行った。

1. 新型コロナウイルス・ワクチンの自発的接種者の実態把握研究
2. 情報提供ナッジの接種促進効果を把握する実験研究
3. with コロナ時代の行動様式に関する実験研究

1.では、ワクチン接種意向を把握した既存調査の対象者のうち、若年層(25-39 歳)を追跡するパネルアンケート調査を行って、3,425 人分の事前の接種意向と現実の行動の情報を含むパネルデータを完成させた。また、自治体のワクチン供給体制と情報提供の実態を把握しデータベース化するために、自治体にワクチン接種券を郵送する際に同封した説明資料を提出するように依頼し、433 の自治体から協力を得た。

2.では、他者の接種意向に関して情報提供するナッジが人の自発的な接種意向に与える効果について検証した研究論文が、国際学術雑誌に掲載された(1)。さらに、接種意向でなく接種行動にナッジが与える効果を評価するため、自治体との協働の下でフィールド実験を行った。ナッジの送り分けのリストと対象者の接種行動の記録とを突合する作業を完了させ、解析を開始した。

3.では、感染症と共存しながら社会を安定運営するためには、ワクチンの既接種者と未接種者の間の協力関係を円滑に構築することが重要だと考え、ワクチン接種者と未接種者がお互いに対してどのくらい協力的かを実態把握するための実験研究を行い、1,578 人分の回答データを収集した。

【代表的な原著論文情報】

1) Sasaki, S., Saito, T., and Ohtake, F. "Nudges for COVID-19 voluntary vaccination: How to explain peer information?", Social Science & Medicine 292, No.114561. January 2022.